

◇岩美町地域公共交通計画のパブリックコメントに対する意見募集の結果

番号	資料ページ等	ご意見の内容	対応（回答）
1	—	目標に交通権の観点のみならず、二酸化炭素排出削減のための自家用車移動の抑制も併せて掲げるべきだと思います。	環境対策の観点を取り入れることについて、本計画に係る取組を実施することで二次効果として二酸化炭素排出削減に繋がるものと考えますが、本計画は持続可能な公共交通体系の構築を目的に策定しようとするものですので、環境対策を目的とした表現は差し控えます。
2	—	「公共交通を利用しにくい地域」の住民への対応として、電動アシスト自転車の購入補助を行ってはいかがでしょうか。	電動アシスト自転車の購入に係る購入費補助の実施については、計画策定後の具体的取組に係るご提案として承りました。
3	—	田後・陸上線の陸上方面は利用者が少ない上に、東浜を介した鉄道利用で代替できることから、廃止し、その結果、新たに「公共交通を利用しにくい地域」となる羽尾の高齢者にはタクシー券や電動アシスト自転車の購入補助で補ってはいかがでしょうか。	田後・陸上線の運行方法については、計画策定後の具体的取組に係るご提案として承りました。
4	—	岩井線の扱い。岩井線と合わせると30分に1本で鳥取市中心部に向かえるとされていますが、岩井線はほぼ倍額ですので、できるだけJRで鳥取市中心部に行けるようにすべきです。鉄道と並行して運行されるバスは、鉄道需要を引き下げ、最終的に減便や鉄道の廃止に至るおそれがあります。岩井線への委託料を廃止し、蒲生一岩美駅と網代一岩美駅を結ぶ町営バスに切り替えてはいかがでしょうか。その上で新温泉町、鳥取市とともに鳥取一浜坂間の鉄道の増便を申し入れてはいかがでしょうか。	本計画では、町内の交通資源を効率的に活用することで、現在の公共交通ネットワークを基本とした移動の利便性を維持・確保していくことを基本的な方針としておりますが、ご意見の公共交通ネットワークのあり方については、計画策定後の具体的取組に係るご提案として承りました。
5	—	利用時間、利用人数の減少はあるのだが、帰り便が、岩美駅発で田後ではなく直帰で陸上に行くバスは便を作ってもらえないだろうか。	ご意見の町営バス路線の見直しについては、計画策定後の具体的取組に係るご提案として承りました。
6	2ページ	①この公共交通計画は、総合計画→第2期戦略にぶら下がるものと思う。関連計画ではないので、図を修正すべき。 ②第2期戦略は、SDGsを鑑み目標等を構成している。SDGsが叫ばれる今日、この公共交通計画にもSDGsとの繋がりを明記すべき。	①計画中の表は、岩美町地域公共交通計画との位置づけですので、第2期岩美町地域創生総合戦略は関連計画としております。 ②関連計画である第2期岩美町地域創生総合戦略に記載されたSDGsの概念は考慮しつつ、本計画を実行することで結果的にSDGsの取組に繋がりますので、計画への明記までは考えておりません。
7	19～20ページ	①岩美町の公共交通の利用しやすさや、広域交通結節点までのアクセスしやすさは、他市町村より高い水準であるにも関わらず利用者が少ないことを観るに、無駄な投資・施策となっていると捉える。つまり現状が総花的な投資であり、実態をつぶさに見て選択と集中が肝要である。 ②上述に関しての対応は、下記P44の欄に記す。	下記項目（9番）にて回答いたします。
8	44～49ページ	目標を達成するための事業が記載されているが、この目標を達成するには、それを確実に実践する体制が不可欠。立派な計画があっても、俗に言う“殿様火の用心、足軽火の用心”になっては、各部署が何もできず目標達成が困難である。その計画を実施主体部門におろし、その部門が実行性のあるアクションプランを策定し実践、そしてその実績を町地域公共交通会議でフォローしなければ目標は達成できない。 そして、その進捗を町HPで公開することが目標達成の近道となる。 このようなプロセスをこの計画に明記し、実践力を高めるべき。	ご意見のとおり、計画の推進及び目標の達成には、それに対応した体制づくりが重要であり、本計画では、52ページに「岩美町地域公共交通会議」で行う計画の推進体制等を記載しております。 また、進捗に関しては、町ホームページなどを通じた情報公開を行います。
9	44ページ	現在の公共交通利用者は時間帯によっては0人も多くみられる。その状況で事業者への委託料は4,140万円にもなる。岩井線、町営バス共に利用者が極少の便は大幅に削減し、その削減費用でデマンド運行することが、選択と集中となる。 (トアトアに寄与)	町内で運行されているバスでは乗車の非常に少ない便もありますが、往路と復路で利用の状況が異なるため、結果的に乗車のない便が発生する点、往復の片道便だけの委託料削減は困難な点は、ご理解いただければと思います。 デマンド運行の方法等については、本計画の44ページ、バスの運行の効率性を高める事業に記載しております。
10	48ページ	モビリティマネジメントを強く推進する意味において、岩美町職員及び関連団体は公共交通で通勤する。なぜならば、政府の脱炭素に向けた「グリーン成長戦略」実行計画（脱炭素先行100地域選定ロードマップ）の骨子が明らかになり、自治体の省エネライフスタイルへの転換や、温室効果ガスの削減が叫ばれる。この様な中、岩美町は低炭素社会に向けた先進的活動を実践することで、岩美町の魅力アップを発信し、第2期戦略の「住んでみたいまち、続けたいまちづくり」の具現化に寄与する。よって、町職員が率先して行動することがその卓効となる。 町行政として本計画の本気度を示す意味において、町職員は公共交通での通勤姿勢を掲げるべきである。	ご意見のとおりモビリティ・マネジメントにより環境対策等の一助となると考えます。また、通勤での公共交通利用については、計画策定後の具体的取組に係るご提案として承りました。